

退職にあたって

妻は、三池主婦会の中では、一番背の小さい方です。戦時中に鹿児島県奄美群島より、女子挺身隊員として徴用され、門司の軍需工

えに甘えたことでした。
一男三女の私の子供達も、三池 妻
闘争のころは上が中学生、一番下 きま
は幼稚園でした。この子らがまた し、
私の弱気な心を常に支えてくれま 在、

今は白髪がふえ、年老いて
た。それぞれ子供達は成人
も三人生まれています。現
は元気でさやかながらも

い子ども
……。

育ててくださった三池労組の仲間
と三池主婦会の皆様に、厚く御礼
申し上げます。三池労組と三池主
婦会の旗は、永久に不滅であると
信じます。今後ともよろしくご指
導賜りますよう。お願い申し上げます。
三池の旗よ、永遠なれ。

一九八一年一月記

紹介
住所は「荒尾市大平町二丁目五〇七七」です。
素晴らしい手記を寄せていただき、大変ありがとうございます。これからも、ご投稿をお願いいたします。ご自愛下さい。

——編集部

二池の旗よ、永遠なれ

妻と子供達にささえられ闘った三十年

退職者 柳田秀世司

でこのことです。が、夢見が悪いとい
つては休ませるような、縁起を
かつぐ昔風の母でありました。私が
まだ幼かったころ父と離別、農家
へ手伝いについて、もらってくる
わずかな金で親子三人が飢えをし
のいた幼いころの思い出。愚痴も
いわずに私の無事故だけを願って
くれたその母も、四年前に九十二
年の春に結婚

これほどの闇魂が秘められていようとは思いませんでした。ただ驚き、がつ感心させられたのでした。

英雄なき百十三日の闘い。その後に来る三池闘争。妻は、末の子を青空保育園に出して炊出し動員。杜宅に寝泊りするオルグの世話。日夜を問わず動き回り、夜寝

は、小学校の三年生になったばかりの長女の務めでした。

長い間いも終り、生活の安定を図ろうと計画したのも束の間、会社・職制のあぐなき差別支配で、月々の収入は闘争前より悪くなりました。本来の仕事にはつてくれない。賃金は差別。教えれば限らない抑圧でした。これに見切りが脈々と流れ、強くなつていきました。家にありては姑のイヤミをさりと流し、決して口答えしませんでした。笑顔で受け流すのです。母が亡くなる十日ほど前からは、ついに寝たきりの母を娘以上に親身になって世話してくれました。事がちよつとでもないかと、妻の名を呼んでいた母。死の直前まで甘

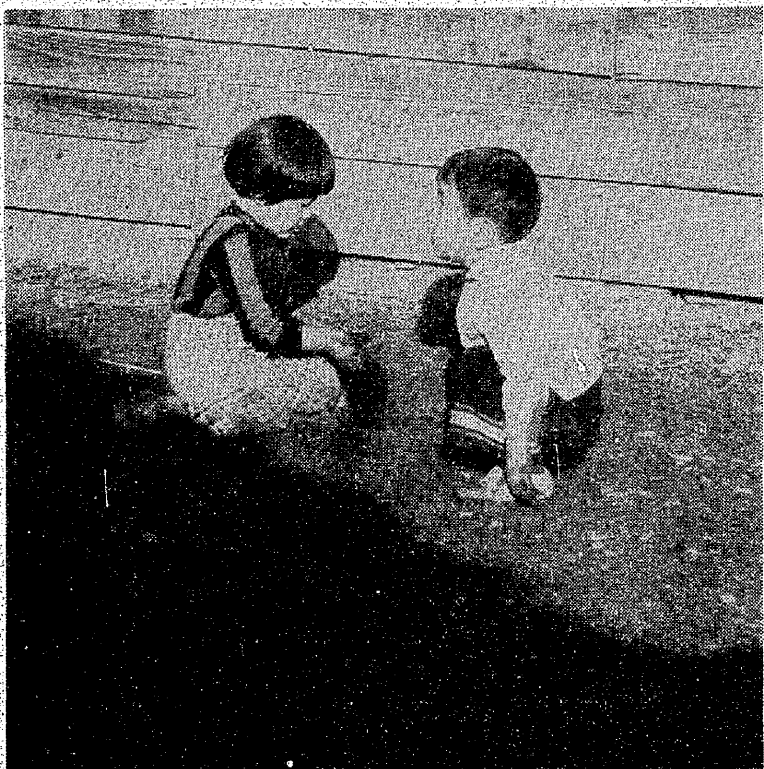
した。闘争本部から何日ぶりで家に帰ると、「お父さん、裏切りの者になるなよ。お父さんが裏切りの者になったら、追いつくよ」と光り輝く目で私を励ましてくれた。

平穩な定年を迎えることができ
ました。すべては妻や子供達の励ま
しと、健康であったことを確信致
しております。

三十有余年間愛し続け、慈しむ

火種
池男組の一員
かつては三
人、ご苦労さ
まです。

三池の心意氣で、現在は現業部会の執行委員として頑張っています。今日の三池闘争二十周年記念大集会には、何んとしても思いから妻と共に参りました。



冬、社宅の片隅の陽だまりのなかで、幼い子ども二人無心に遊ぶ。もつとよい環境で遊ばせたいもの。

金の有る無しで――

命が左右されては

“S子”さんの抗議の手記

労働・福利闘争の時期がきた。春闘だ。三川の坑外職場新聞「はぐるま」は、S子というペンネームの人の「病氣」という手記をかかけた。同手記は命さえ金で左右される世のなかを嘆き、「命と暮らしを守れるくらいに労働条件がほしい」という思いを、次のように語っている。これから春闘をめざす切実な気持をこうして率直に出し合い、そして春闘・福利闘争をすすめていくため団結しよう。

原文のまま

原文のまま

あー

「私は赤血球三八〇になり、もう大分よくなりました」

「私は、血液検査と言つて血をとられたうえに、お金を五千七百円もとられたとよ。それも保険ないくらぐらいでしょうね」

「私は、まだ血沈七四〇R27円もあるんですよ。いやだなラスもあるんですよ」

「五十七百円位なら、いい方よ。私はこの間ミンチとかいう検査で、二万円近くとられました。一回ですよ」

「保険で二万円なら、実費だとよ。そこに今、診療を終えればかりな」

一ヶ月入院すれば、二十万円から三十万円は準備しておかなければならず、原因究明のために検査をし、治療するとなれば、四十日から一年以上はかかり、平均三ヶ月位いの入院は覚悟しなければなりません。

といいましたが、今は貧乏人は死ね、と言われる世の中ではないからね、と、心細くなります。

きびしい年を迎えるにあたり、自分の命と生活を守るくらゐの思いがほしい、とつくづく思っています。

な、お右のお手紙は、大集会の日
にいただいた御芳志のなかにそい
と添えられていたもので、それだ
けにご厚情が身にします。お住
まいは「福岡県京都郡苅田町、白
石（八三三の三）」です。お壮健の
ほどを、心から祈っております。

「はぐるま」から

「ブレドリン四錠飲んでいたら、それが又増えるらしいよ。その上食道に静脈瘤も出来ているようだから、入院したがいだから」と言われました。でも、入院はねえ……」

え、経済的考慮から入院がおくれない。その四ヶ月後には亡くなられたと聞きます。

又話に聞けば、生活保護家庭の人で「再生不良性貧血」といわれて入院治療を受けられても、生活保護ということで治療も制約される

同封の金子、甚だ少額ですが、
一部はCOO闘争のために、一部は
機関紙「みづけ」の購読料にお願
い致します。

といひました。今は貧乏人は死ぬ、と言われる世の中ではないかと、心細くなります。

な、お右のお手紙は、大集会の日
にいただいた御芳志のなかにそい
と添えられていたもので、それだ
けにご厚情が身にします。お住
まいは「福岡県京都郡苅田町、白
石（八三三の三）」です。お壮健の
ほどを、心から祈っております。